

東宏社長

◆日建リース工業の傘下に入った狙いは

トンネル覆工工事などで数多くのヒット商品を開発してきた東宏（札幌市東区、小林雅彦社長）が2018年9月、日建リース工業の子会社となった。同社はこれまで、大手ゼネコンと共同でコンクリート養生工法「トンネルバルーン」や給水養生工法「アクアカーテン」を開発するなど、40を超える特許を保有している。日建リース工業のトンネル事業部と、今後どのような事業展開をしていくのか、小林社長に聞いた。

◇ 東宏のこれまでの事業内容は。

「当社はもともと建設資材商社だったが、公共事業の減少に伴い、商社マージンだけでは生きていけなくなってきた

この人に聞く



小林 雅彦氏

トンネル急速施工で生産性向上

「トンネルと呼ばれる型枠ごと養生する『セントル養生』を開発し、値段も自分たちで決められるような商品を販売しよう」と経営方針を変えた。その第1号が03年に開発した『トンネルバルーン』。同工法はエアマットを使ってアークリートの推定圧縮強度をリアルタイムに表示する『積算

温度強度管理システム』、アラムド繊維を使ったバルーンで発破時の粉じんなどの飛散を防ぐ『トラベルクリーンカーテン』、急速施工が可能な『インバート橋』など、トンネル工事に関連する技術開発をこれまで行った。現在、出願中の案件も含め43件（うち共同開発26件）の特許を保有している。この知的財産が「次々と独自工法を開発している」。

「当社の企業理念は『課題解決型企業であり、日本のトンネル技術向上に貢献することだ。とにかく現場の方々の声を聞き、困っていることがあれば解決策を提案し、一緒に開発しよう』と持ちかける。現場の人たちに『これは使いやすい』と言ってもらえる商品を引き続き開発したい。特にクリティカルな状況になりつつある切羽後方の作業の急速施工に今後は力を入れたい。生産性向上が可能な技術を開発することで、建設業界が抱える担い手の確保や働き方改革の課題解決の一翼を担いたい」。

ていた。前社長と話し合い、自分たちでオリジナル商品を開発し、値段も自分たちで決められるような商品を販売しよう」と経営方針を変えた。その第1号が03年に開発した『トンネルバルーン』。同工法はエアマットを使ってアークリートの推定圧縮強度をリアルタイムに表示する『積算

温度強度管理システム』、アラムド繊維を使ったバルーンで発破時の粉じんなどの飛散を防ぐ『トラベルクリーンカーテン』、急速施工が可能な『インバート橋』など、トンネル工事に関連する技術開発をこれまで行った。現在、出願中の案件も含め43件（うち共同開発26件）の特許を保有している。この知的財産が「次々と独自工法を開発している」。

「当社の企業理念は『課題解決型企業であり、日本のトンネル技術向上に貢献することだ。とにかく現場の方々の声を聞き、困っていることがあれば解決策を提案し、一緒に開発しよう』と持ちかける。現場の人たちに『これは使いやすい』と言ってもらえる商品を引き続き開発したい。特にクリティカルな状況になりつつある切羽後方の作業の急速施工に今後は力を入れたい。生産性向上が可能な技術を開発することで、建設業界が抱える担い手の確保や働き方改革の課題解決の一翼を担いたい」。

「前社長に後継者がいなかったこと、日建リース工業がトンネル工事を強化していたことがマッチングの狙いだ。日建リース工業は事業規模が大きく、信用力も高い。当社の資本力では踏み出せなかった大型機械を使った技術開発